郡山八景の再発見、再確認、再発信「新郡山八景賑わいづくり」

福島県土木企画課　　正会員　松本　英夫
福島県県中建設事務所河川砂防課　　浜津　威彦
○根本　智明

１　はじめに

現在の地域社会を取り巻く状況を見ると、人口減少や少子高齢化が進み、中心市街地では都市機能の衰退が顕著になっている。郡山市も店舗閉鎖や郊外店進出により中心市街地衰退に拍車がかかり商都郡山が崩壊の危機に瀕しているといえる状況である。

そのため、郡山市内においても、様々な賑わいづくりの事業が展開されている。

ところで、郡山市は昔から農業・商業・工業により発展してきたまちであり、とりわけ市街地部においては目立った観光施設が無い。

しかしながら、郡山には、「郡山八景」なるものが存在するが、その存在を知らない市民も多いことから、本研究では、この「郡山八景」にスポットを当て(再確認)、また、新たな八景の発掘を行いながら(再発見)、これらの地域資源を活かすとともに、まちの賑わい創出のために、何ができるのか、またどうすればよいのか(再発信)について研究した。

２　「郡山八景」の再確認

郡山市は江戸時代二本松藩の代官所が置かれるなど一宿場町ではあったが地の利を活かした物流の拠点であった。そのような中で商人の間に俳諧などの文化が栄え、有名な「近江八景」などにならい、当時の郡山における風光明媚な場所として「郡山八景」が選定された。「郡山八景」を以下に紹介する。

①八幡森の明烏　→

（八幡様(安積国造神社)から烏の鳴声が夜明けを告げる情景）

②八丁八橋の駒の跡

（奥州街道の八つの石橋を渡る馬の蹄跡で当時の賑わいの情景）

③如宝寺の晩鐘　→

（日暮れ時に、当市地区の如宝寺から鐘の音が響き渡る情景）

④稲荷舘の夜雨（陣屋地区の代官所にあった稲荷様の祠に、夜雨の降る情景）

⑤八天狗の糸桜（本町地区の熊野神社境内にある紅垂れ桜の老木の情景）

⑥皿沼の釣舟（清水台地区の皿沼(現在の商工会議所付近)に釣船が浮かぶ情景）

⑦愛宕山の秋月　→

（清水台地区の愛宕神社からみる秋の月の情景）

⑧弁天の松の雪　→

（弁天池(麓山公園)にある松の木の雪景色の情景

３　「郡山八景」を活用する上での現状や課題

①ｱﾝｹｰﾄ調査から「郡山八景」の認知度が非常に低い。
②「郡山八景散策ﾏｯﾌﾟ」は現在発行されていない。
③８つの八景のち約半数は現存していない。

４　「新郡山八景」の発掘

下記理由から新郡山八景を新たに探すこととした。

理由①：先のｱﾝｹｰﾄ結果から、今の八景に取り上げたいと感じる場所が多数寄せられたこと。

理由②：商工会議所主催の写真ｺﾝﾃｽﾄに、まさに八景といえる対象が多数応募されていること。

理由③：「新郡山八景」は、今後の観光的な動きや活性化への大きな一歩になると考えたこと。

「新郡山八景」の発掘は、過去の写真ｺﾝﾃｽﾄで数多く応募されている対象を基本に検討したが、多くの対象の中から僅か８つを絞り込むのは困難なため、下記３種類の「八景」を新たに考え、それぞれ８つの対象を選定した。

(1)「郡山夜景八景」（夜景やｲﾙﾐﾈｰｼｮﾝが綺麗と感じる場所）
(2)「郡山まちなみ八景」（主に市街地の対象を眺め景色が良いと感じる場所）
(3)「郡山やまなみ八景」（対象に山なみが入っていて景色が良いと感じる場所）

上記各八景を以下に紹介する。

(1)「郡山夜景八景」

①郡山駅前のｲﾙﾐﾈｰｼｮﾝ→

・キーワード（八景,地域資源,賑わい）

・連絡先（福島県県中建設事務所河川砂防課　024-935-1444）

②ﾋﾞｯｸｱｲからの夜景↓　③ﾗｲﾄｱｯﾌﾟされた公会堂↓

④あさか野花火大会　⑤東部ﾆｭｰﾀｳﾝからの夜景
⑥田村町下行合地区からの夜景
⑦杜のくまさん(三春町)からの夜景
⑧奥羽大学からの夜景↓

(2)「郡山まちなみ八景」

①ﾋﾞｯｸｱｲからみる市街地眺望↓

②市役所からみる春の開成山公園↓

③逢瀬公園展望台からの眺め↓

④阿久津橋から見る阿武隈川越しの市街地

⑥大正ﾛﾏﾝ溢れる公会堂↓

⑤郡山うねめまつり
⑦柳橋歌舞伎
⑧谷田川橋からみる市街地

(3)「郡山やまなみ八景」

①ﾋﾞｯｸｱｲからみる奥羽山脈と阿武隈山地
②阿久津橋からみる阿武隈川越しの安達太良山
③西田町三町目地区からみる梅林と安達太良山　→

④御霊櫃峠のやまなみ
⑤熱海地区からみる安積山
⑥風そよぐ布引高原　→

⑦逢瀬地区に飛来する白鳥と安積山,安達太良山

↓

⑧湖南町からみる猪苗代湖と磐梯山↑

5　活用策の提案

①情報発信

「郡山八景」「新郡山八景」とも認知度ｕｐを図ることが再重要と考え、その方策を検討した。

◎「郡山八景散策ﾏｯﾌﾟ」の継続頒布
◎市内の情報発信拠点でのパネル常設展示
◎旅番組等マスコミを活用したＰＲ
・景色（八景）と”食”をﾘﾝｸさせＰＲする。
ex.郡山ﾗｰﾒﾝ、湖南地区の蕎麦、郡山の鯉料理、その他Ｂ級ｸﾞﾙﾒ
◎”食”をとりこんだ新八景ﾏｯﾌﾟ作成
(今回、”食”の情報収集をしﾏｯﾌﾟ作成を試行)

②イベント提案

情報発信を効果的にし、まちなかの賑わいに繋げるためｲﾍﾞﾝﾄ実施が有効と考えた。

◎「郡山八景探訪親子ふれあいウォーク」
（実際に目にしてもらう）
◎「郡山八景写真コンテスト」
◎「郡山八景絵画コンテスト」
（現存していない対象もあるため、絵にし、絵ﾊｶﾞｷ化や商業的動きに繋げる）
◎「まちなか音ステージｉｎ郡山八景」
（”音楽都市郡山”ということで音楽ｲﾍﾞﾝﾄに合わせ八景をＰＲする）

<ｽﾄﾘｰﾄﾗｲﾌﾞでの PR 試行→>

6　まとめ

「郡山八景」は郡山の歴史そのものであり、貴重な郡山の財産であることがわかった（再確認）。

次に、現代版八景である「新郡山八景」発掘を試みたが、ハッとするようなすばらしい眺めが、結構身近にあるものだと気付かされた(再発見)。

活用の面では、PR が非常に重要と考え、例えば”食”とからめたﾏｽｺﾐ利用や、ｲﾍﾞﾝﾄを通した、にぎわい創出を考えた（再発信）。

今回の研究では、「郡山八景」という、今まで、広く知られていなかった隠れた資源をﾍﾞｰｽに、再認識・再発見・再発信をｷｰﾜｰﾄﾞに、まちなかの賑わいづくりに資するための方向性を提起したが、今後は、関係各署と連携を図りながら、可能なところから具体的な作業を進めていきたいと考えている。